



道総研

## 調査速報

### 道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2020年12月14日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-83-2893)

○2020年12月2日～10日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラを対象にした計量魚探調査、トロール調査、CTDによる環境調査を実施したので、結果をお知らせします(図1)。調査速報は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は主に奥尻海峡から相沼沖にかけて分布していた。
- 魚群は概ね水深300～500mに分布し、分布の中心は前年と同様に水深400m前後に見られた。
- 魚探反応量は前年の約8割に減少し、引き続き低水準。
- 魚体の大きさは40cm前後が主体で、45cm前後の個体も漁獲された。
- スケトウダラが分布していた水深300～500mの水温は1.9℃以下で、各調査点とも平年並みであった。

#### ● スケトウダラ魚群の分布状況

##### ・ 水平分布

スケトウダラ魚群の多くは奥尻海峡(奥尻島の東側)から相沼沖にかけて分布していました(図2)。一方、乙部以南の海域ではほとんど分布が見られませんでした(図2, 3)。

前年(2019年)と比較すると、相沼の沿岸近くを除けば全体的に魚探反応量は減少していました(図2)。

##### ・ 鉛直分布

スケトウダラ魚群は概ね水深300m～500mに分布していました(図3)。分布の中心は、前年と同様に水深400m前後に見られました。

#### ● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚群反応量の経年変化

スケトウダラ延縄漁場とその周辺(図1の赤破線枠内)のスケトウダラ魚群反応量は前年の約8割に減少し、引き続き低水準で推移しています(図4)。

#### ● 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ

着底トロール調査では、尾叉長33～54cmのスケトウダラが漁獲されました(図5)。尾叉長40cm前後の5歳魚(2015年生まれ)と思われる個体が主体で、45cm前後も漁獲されました。

#### ● スケトウダラ延縄漁場域の水温環境

スケトウダラが分布していた水深300～500mの水温は1.9℃以下で、各調査点とも平年並みでした(図6)。

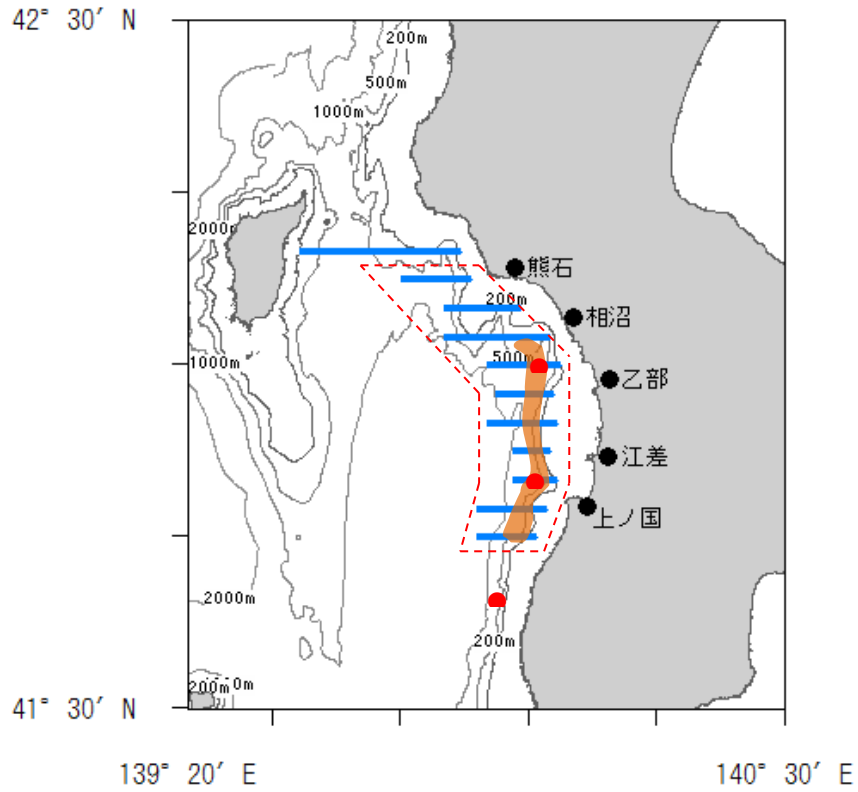


図1 調査海域図

※赤破線は図4の魚群反応量を算出した範囲

○ : スケトウダラ延縄漁場

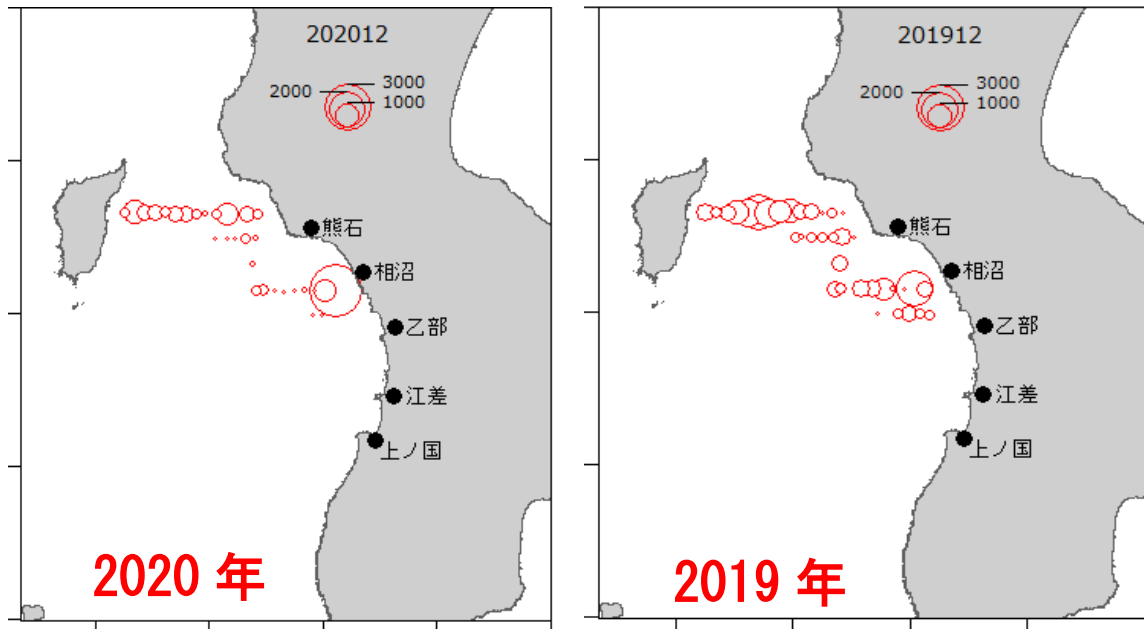


図2 計量魚探調査による魚群反応量(NASC ( $m^2/nmi^2$ ))の水平分布

※魚群反応量(NASC) : 1 マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表す。

○の大きさが魚群反応量の強さを示す

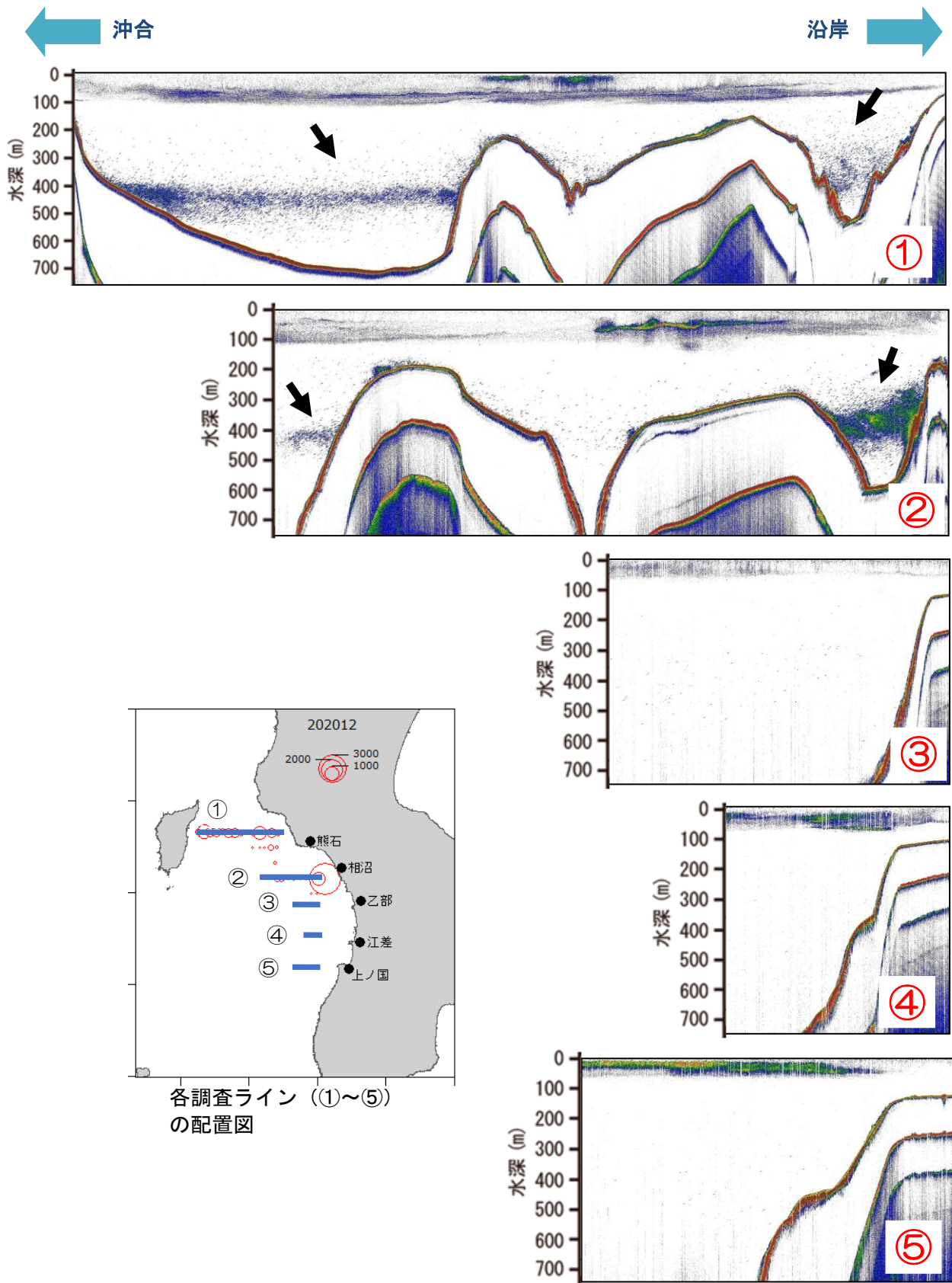


図3 スケトウダラの魚探反応図 (2020年12月)  
 (全て夜間に調査を実施)  
 ※矢印 はスケトウダラと考えられる反応

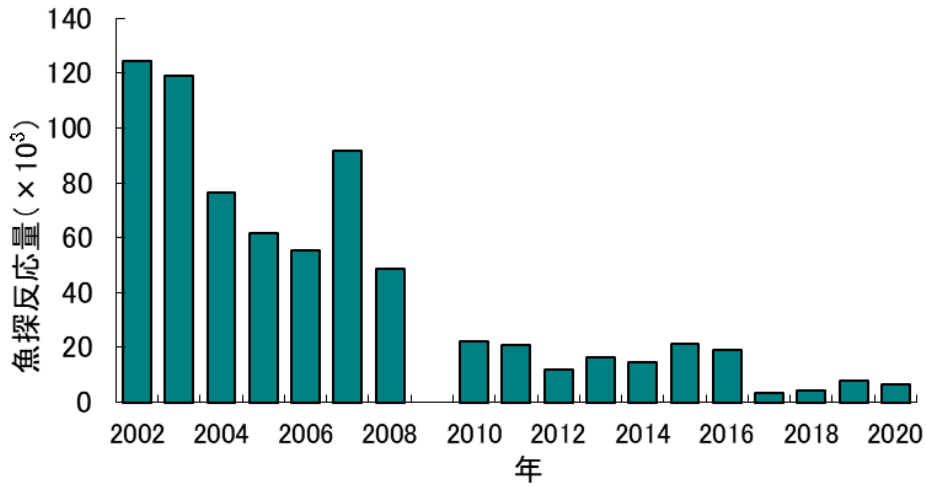


図4 スケトウダラ延縄漁場とその周辺における魚群反応量の経年変化  
 ※2009年は荒天で調査できず

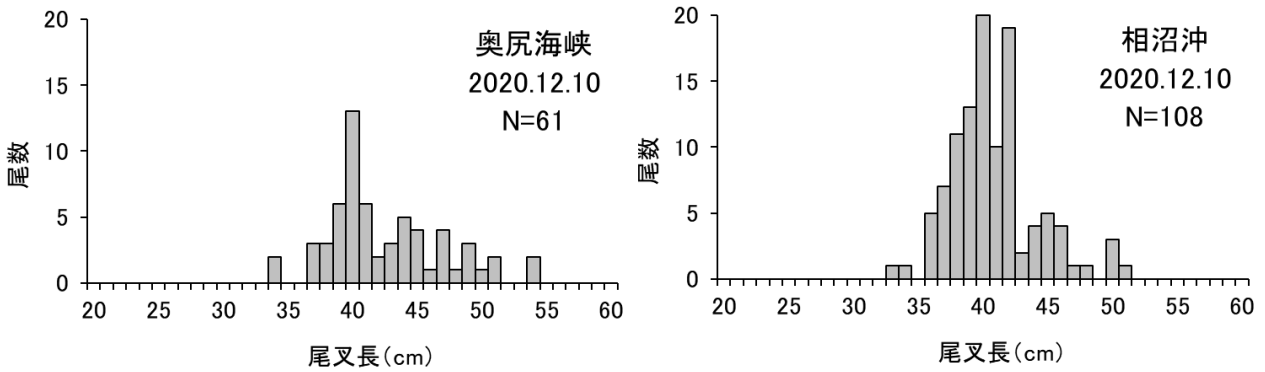


図5 着底トロールで漁獲したスケトウダラの尾又長組成

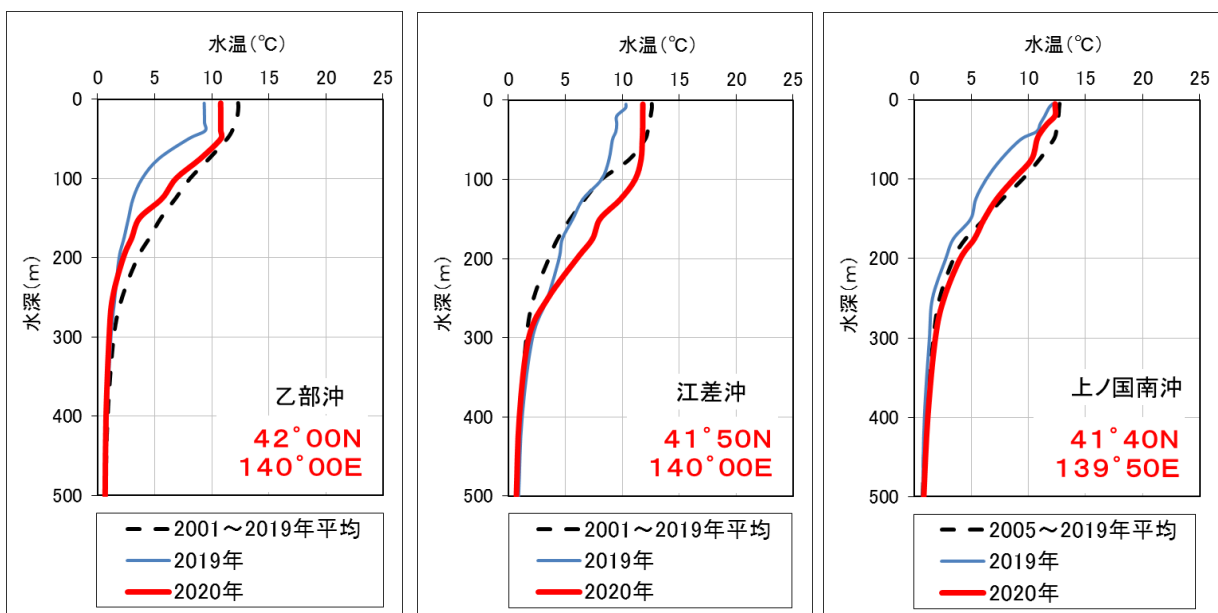


図6 乙部沖(左), 江差沖(中), 上ノ国南沖(右)の鉛直水温分布(2020年12月)